

帝国主義戦争に抗するギリシャ労働者と連帯を！

ギリシャ共産党からの要請

KKKとKNEへの国際連帯の表明を

ギリシャ共産党中央委員会国際関係部

同志諸君、

二〇二二年四月六日に行なわれた大規模なストライキ集会において、テッサロニキ港で抗議行動を行っていたストライキ労働者たちに対し、テッサロニキの警察が挑発されたわけでもないのに暴力的な攻撃を行なった。テッサロニキ港では、NATOの艦船が東欧に軍事装備を運ぶため、停泊していた。

攻撃に続いて、八名の抗議行動参加者が不当にも逮捕され、その中には、二名のギリシャ共産党中央委員と共産主義青年同盟の中央評議員一名がいた。二名の中央委員のうち的一名は、重傷を負い、入院した。ギリシャ共産党中央委員会の日刊機関紙『リゾスパスティス』の記者の一人も、攻撃を受けた。

ギリシャ政府は、NATO・合衆国・EU（欧州連合）の危険な帝国主義の計画とウクライナで行なわれているロシアとの帝国主義戦争にギリシャをいっそう深く巻き込む政策を推進しようと、必死になっている。そして、正当な集会を弾圧している。政府による弾圧は、すでに、わが国の労働組合や他の大衆団体から広範で大衆的な非難を浴びており、諸団体は、逮捕された闘士をただちに全員解放するよう政府に求めた。

四月七日の朝、労働者と人民からの圧力を受けて、八名の闘士が解放されたが、検察は、裁判の日取りを六月十五日に決めた。八名の闘士の嫌疑は、不服従と囚人の解放、外国資産の損壊、公務員に対する暴力である。武器と発煙筒に関する法律違反と武器の使用に関して前日に八名に出されていた告発は、今朝、誤りが証明された。明らかにでっちあげだったのである。

同志諸君、

四月六日のストライキ集会に関するギリシャ共産党中央委員会国際関係部の記事を添付する。ギリシャ共産党と青年同盟への国際連帯の表明をお願いしたい。

同志として、

アテネ、二〇二二年四月七日

【訳＝杉本芳夫】

物価高騰と軍事関与に対する全国ストライキ労働者人民の運動を激化させる重要な一歩

ギリシャ共産党中央委員会国際関係部

全国でスト集会

四月六日の水曜日、アテネ、テッサロニキ、パトラス、その他のギリシャの主要都市で、何万という人びとがデモを繰り広げた。全ギリシャ戦闘的労働者戦線（PAME）に結集している階級的な労働組合と自営業者、婦人、青年の大衆組織による呼びかけに応じたものである。

ギリシャ議会前のシンタグマ広場にあふれかえったアテネでのストライキ集会も、全国各地で実施された他の集会も、物価高騰に抗議し、団体労働協約を求め、賃上げを求め、

帝国主義戦争へのギリシャの関与に反対する要求を掲げていた。大規模な労働現場と公共運輸や物流といった重要部門がストップし、ND（新民主主義党）政府が最近導入した非道な法制を実質的に無効にした。この法制は、ストライキ権に対する障害物を強要するもので、SYRIZA（急進左翼進歩連合）の前政権が制定した類似の法制を強化したものである。

建設労組連盟の事務局長V - シリゴスがアテネの集会で演説し、尊厳ある生活を求める闘いを継続し、さらに激化させる意志を表明した。「今度の労働者メーデーは、きわめて重要である。わが国の人民は、新たな帝国主義戦争という状況で厳しい試練に立たされており、企業グループの利潤のために大きな代償を払っているのだから。しかし、われわれは、追いはぎどものうちからひとつの陣営を選ぶとすることをしない。われわれは、諸人民の側に立つ。貧困と戦争、難民化、搾取に反対する。」

続いて演壇に立ったアッティカ熟練工連盟の副委員長D - ビタリスは、次のように訴えた。「われわれが労働者たちといっしょにここにいるのは、人民の収入を守るためである。われわれは、自分たちの自明の権利を主張する。自分たちの店で働き、尊厳を持って家族を扶養できるようにするためである。われわれの闘いは、われわれだけの闘いではない。自分たちだけのために闘っているのではない。われわれの要求は、すべての人民に関わることである。」

さらに、牛乳・飲料・食料産業労働者連盟の執行委員であるバシリス - パパジョルジュは、物価の高騰から人民の収入を守る措置をただちに採るようにとの要求を表明した。今月上旬の物価高騰により、実質賃金が目減りしている。

コーツォンパス書記長の訴え

ギリシャ共産党中央委員会書記長のディミトリス - コーツォンパスは、シンタグマ広場で開催されたアテネのストライキ集会に出席し、報道機関に対して以下のように述べた。「今日の全国ストライキは、労働者と人民の運動の闘いを激化させる重要な一歩であり、物価高騰に抗議し、人民の収入の保護と団体労働協約、賃上げを求め、もちろん、帝国主義戦争とそこへのギリシャの関与に反対している。このストライキは、労働者と私有・公共両部門の被雇用者、さらには自営業者、科学者、農民、学生、人民世帯の婦人の共同活動をさらに強化することができる。われわれは、これからも活発にやりぬく。」

警察がテッサロニキの集会を攻撃

注目すべきことに、受け入れ難いロシアによるウクライナ侵略の後、ギリシャ共産党と共産主義青年同盟は、港湾や都市で重要な反帝国主義のデモを繰り広げる最前線にいて、合衆国とNATOの基地の存在とNATO軍部隊のギリシャでの展開に反対し、帝国主義戦争とそこへのギリシャの関与に全面的に反対している。

そのようなデモがこのところ、ピレウス、アレクサンドルポリス、ラリッサ、クレタ島のスーダ基地、その他いたるところで繰り広げられている。

四月六日、テッサロニキで大規模なストライキ集会が実施され、帝国主義戦争へのわが国の関与を非難し、合衆国領事館と全ギリシャ企業連盟（SEV）の事務所を経由してテッサロニキの港湾へとデモ行進した。デモ隊が港湾に近づくと、「テッサロニキは帝国主義者のための発射台ではなく人民の港だ」というシュプレヒコールが轟いた。

港湾での集会では、挑発されたわけでもないのに弾圧部隊が暴力的な攻撃をしかけてきて、八名の抗議デモ参加者が不当逮捕され、そのうちの二名はギリシャ共産党の中央委員

(うち一名は重傷を負って入院) で、一名は共産主義青年同盟の中央評議員だった。

労組の抗議で八名の闘士は解放

この事態に直面して、複数の労働組合がアテネとテッサロニキで弾圧に抗議するデモを実施し、逮捕された抗議者の解放を求めた。政治局員と中央委員、党の国会議員から成るギリシャ共産党代表団が、市民保護省の前での集会に参加した。

「われわれは、要求を取り下げない。脅しの風潮を受け入れない。」労働組合は訴えた。

四月七日の朝、労働者と人民の運動による圧力を受けて、八名の闘士が解放されたが、検察は、裁判の日取りを六月十五日に決めた。八名の闘士の嫌疑は、不服従と囚人の解放、外国資産の損壊、公務員に対する暴力である。武器と発煙筒に関する法律違反と武器の使用に関して前日に八名に出されていた告発は、今朝、誤りが証明された。明らかにでっちあげだったのである。

二〇二二年四月七日

(ギリシャ共産党のウェブサイトにて二〇二二年四月七日付で英文を公表)

【訳＝杉本芳夫】

(『思想運動』1076号 2022年5月1日号)